

公益社団法人 愛知県歯科衛生士会学術大会 第 16 回会員発表 抄録

歯科訪問診療における

歯科衛生士の現状と課題

ジョイデンタルクリニック

小島 美和

【目的】近年高齢化社会が進み歯科通院の困難な人が増加している。当院はその状況を鑑み訪問歯科診療を立ち上げた。今年で節目の 10 年を迎えることで当院の取り組みにおける歯科衛生士としての役割や課題について考察する。

【概要及び方法】当院では、老人保健施設、特別養護老人ホーム施設、障がい者施設、有料老人ホーム、在宅に訪問し、訪問歯科診療にて口腔ケアや VE 検査、嚥下訓練を行っている。歯科衛生士の役割は、診療補助及び予防処置、口腔衛生管理、口腔機能向上のための訓練と指導、また患者や家族、心理的側面も含めたサポート。また情報共有のため多職種連携と施設向けの口腔ケア講習会の実施である。訪問歯科衛生士は歯科の専門知識構築は勿論であるが、高齢者や障がい者の病気や内服薬について理解や知識を深め、患者のバックグラウンドについて十分に理解し問題点の抽出を行うことである。

【経過および考察】インフォームドコンセントを行うためには、医療保険や介護保険、公費についても知識が必要になる。また患者の口腔機能を支えるにあたり、多職種連携を行える歯科衛生士を育成する専門的な教育プログラムや活動中の歯科衛生士が相談できる場所が必要と考える。上記の構築ができれば、歯科衛生士の活動の場が広がり、休職中の職場復帰にもつながると考察した。

【まとめ】訪問歯科診療に携わることで、自身の未熟さにより多くの困難や障壁を経験したが、重度の知的障がい者が口腔ケアの時だけ素直に口を開けてくれたり自主的に列を作って口腔ケアを待ってくれる方々に会うたびに、歯科衛生士としてこの仕事に携われたことに大きな誇りと喜びを感じる。当院の訪問歯科をスタート時から支えている歯科医師とスタッフに感謝すると共に、これからも研鑽していく。

歯科衛生士リカレント研修センターにおける

2021 年度第 1 期研修生の研修効果

1) 愛知学院大学短期大学部歯科衛生学科

2) 愛知学院大学短期大学部歯科衛生士リカレント研修センター

大矢 幸慧

【目的】歯科衛生士の基本的理論を学ぶ「基本プログラム」、歯科衛生士としての必要な技能を習得する「選択プログラム」および愛知学院大学歯学部附属病院の見学研修を行う「オプションプログラム」を軸とした研修を 3 か月間実施した。そこで、2021 年度第 1 期研修前後の満足度、重要度、自信度についての評価を報告する。

【対象および方法】対象者は、研修生 32 名である。研修前後に Web 質問票調査を実施し、満足度、重要度、自信度の変化を 1～10 点の尺度を用いて 10 段階で尺度化し、比較検討した。なお、本研究は、愛知学院大学短期大学部倫理委員会(承認番号 20-009)の承認を得て行った。

【結果】32 名のうち 3 名を除く 29 名から回答を得、調査項目に記入漏れがなかったため、全てを解析対象とした。

1. 研修前後の評価

研修前後の満足度、重要度、自信度は、全て研修後に増加し、肯定的な変化が認められた($P < 0.01$)。

2. 勤務状況別の自信度評価

研修生の現在の勤務状況より、現役 24 名と復職検討中 5 名で研修前後の自信度を評価した。勤務状況別では、いずれも自信度が増加し、肯定的な変化が認められた(現役 $P < 0.01$, 復職検討 $P < 0.05$)。

【結論】本研修は、復職や技能の向上を希望する歯科衛生士が、口腔健康管理の重要性について再認識し、再び歯科衛生士としての自信を獲得する一助として有効であると考えた。今後、さらに充実した研修を展開できるよう、内容についてもブラッシュアップしていく必要がある。なお、本センターは、令和 2 年度歯科衛生士技術修練部門初度整備・運営事業の事業実施団体として選定された。